

再評価結果(令和8年度継続箇所)

担 当 課:道路局国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

事業名	一般国道8号 <small>にゅうぜんくろ べ</small> 入善黒部バイパス			事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点	自: 富山県下新川郡入善町 <small>しもにいかわ にゅうぜんまちくぬぎやま</small> 梶山 至: 富山県魚津市 <small>うおづ えぐち</small> 江口					延長	16.1km
<b>事業概要</b> 一般国道8号入善黒部バイパスは、交通渋滞の緩和、広域幹線ネットワーク充実強化などを目的とした延長16.1kmのバイパス事業である。							
H2年度事業化		H2年度都市計画決定		H5年度用地着手		H6年度工事着手	
全体事業費		約959億円	事業進捗率 (令和7年3月末時点)		約88%	供用済延長	14.0km 暫定2車
計画交通量		約19,300～34,000台／日					
費用対効果分析	B/C	EIRR	総費用		総便益		基準年
	(事業全体)	(事業全体)	(残事業)/(事業全体)		(残事業)/(事業全体)		
	1.1		179/1,846億円		262/2,001億円		
	1.4 [2%]	4.3%	事業費: 108/1,648億円		走行時間短縮便益: 225/1,752億円		令和7年
	1.7 [1%]		維持管理費: 71/198 億円		走行経費減少便益: 18/ 230億円		
	(残事業)	(残事業)			交通事故減少便益: 18/ 20億円		
(参考)	1.5		感度分析	(事業全体)		(残事業)	
	1.8 [2%]	7.4%		交通量	B/C=1.07～1.10 (±10%)	交通量	B/C=1.3～1.5(±10%)
	2.0 [1%]			事業費	B/C=1.08～1.09 (±10%)	事業費	B/C=1.4～1.6(±10%)
			事業期間	B/C=1.07～1.10 (±20%)	事業期間	B/C=1.4～1.5(±20%)	
<b>事業の効果等</b> ①国際拠点港湾(伏木富山港)へのアクセス向上 ・入善黒部バイパスの4車線化により、工業施設(入善町周辺)から国際拠点港湾伏木富山港へのアクセス向上が期待される。 ②地域産業の活性化・物流効率化 ・入善黒部バイパスの4車線化により、バイパス区間の交通混雑が緩和。所要時間の短縮効果により、地域産業の活性化や物流の効率化が期待される。 ③救急医療施設へのアクセス向上 ・入善黒部バイパスの整備後は、バイパスの利用による時間短縮が図られた他、市街地内の混雑緩和によりスムーズな搬送が可能になるなど、地域の救急活動が効率化。 ・入善黒部バイパスの4車線化により、出勤・病院搬送時間が短縮し、更なる救急活動の支援効果が期待される。 ④夜間騒音の低減 ・入善黒部バイパスの4車線化により、バイパスへ交通が転換し、事業区間周辺地域の騒音が低減。							

関係する地方公共団体等の意見

事業継続に同意する。なお、今後ともコスト縮減に努め、早期に効果が発現されるよう整備促進に格段の配慮をお願いしたい。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、再評価および対応方針(原案)のとおり事業継続することが妥当。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

前回再評価以降、周辺に大きな社会経済情勢等の変化はない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業の進捗状況: 事業進捗率約88%、用地進捗率約99%(令和7年3月末時点)
- ・残事業の内容: 道路改良・橋梁工事

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・現道拡幅区間である入善町桐山～入善町上野間の改良工事を推進し、令和8年春供用を目指して整備を進める。
- ・バイパス区間の4車線整備については、暫定2車線供用区間における主要渋滞箇所の解消に向けて整備中。

施設の構造や工法の変更等

新技術の活用等により、コスト縮減を図る。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みなどからも、引き続き事業を継続することが妥当であると考える。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。〔 〕内は社会的割引率の値)